

Ⅲ 基礎科目(共通科目)の 履修方法

Ⅲ 基礎科目（共通科目）の履修方法

共通科目は、総合科目、体育、外国語（第1外国語、第2外国語）、情報処理（講義、実習、上級）、国語及び芸術の科目からなっており、科目ごとの開設の目的は以下のとおりです。それぞれの履修方法については、次ページ以降に記載します。

開設の目的

総合科目	総合科目Ⅰは、初年次学生が新しい学習環境に適応して、自律的にキャリア形成を始めることを助けます。総合科目Ⅱは、広い視野から学問の在り方や人間の生き方を考えるとともに、自分の専攻する分野とは異なる学問分野を経験して生涯学習の第一歩を踏み出すことを目的とします。
体 育	スポーツ科学を基にした多様なスポーツ実践を通して、生涯に向けたスポーツ技術の習得、健康・体力を維持増進するための知識と実践力、社会人としてのフェアな考え方、他者理解とコミュニケーションについて学ぶことにより、『健やかな身体、豊かな心、たくましい精神』を養う科目です。
外 国 語	学術研究の場で外国語が駆使できるようになることを目指して、学術的教養とそれに相応しい言語技能を養います。また、複数の言語を学ぶことで言語センスを磨き、あわせて文化、社会、価値観の多様性を知り、複眼的な視点からの思考力を身につけます。
情報処理	コンピュータに関する基本概念、その応用と限界、社会におけるコンピュータの位置づけを理解し、インターネット社会におけるルールとモラルを講義と実習を通して身につける科目です。
国 語	国際化した知識基盤社会を生き抜くためには、日本語について正しい知識を修得し、多様な情報を基に自己の意思を適確に表現し伝達する能力が求められます。このような日本語運用能力を向上させ、責任ある行動のとれる人材を育成することを目指します。
芸 術	芸術に関する幅広い知識を学び、美的感性をみがき、表現する喜びを体験する科目です。総合大学の学生にふさわしい豊かでバランス感覚のある人間性を育みます。

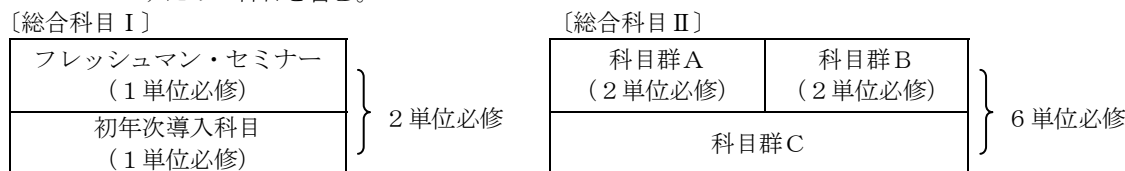
MEMO

1. 総合科目

(1) 総合科目の概要

総合科目は、以下のとおり総合科目Ⅰ及び総合科目Ⅱに分けて開設しています。

- ① 総合科目Ⅰ……大学初年次においてスムーズに大学における学習と生活に適応し、学習目標・動機を獲得して自律的な自己を確立するための科目。
- ② 総合科目Ⅱ……広い視野から学問のあり方や人間の生き方を考える態度・習慣を身につけるための科目。自分の専攻する分野とは異なる学問分野を経験して大学レベルにおける生涯学習の第一歩を踏み出すための科目を含む。



(2) 総合科目Ⅰ

- ① 総合科目Ⅰは、フレッシュマン・セミナーを1単位、初年次導入科目を1単位、あわせて2単位を必ず修得しなければなりません。
- ② 各学群・学類における総合科目Ⅰの修得すべき単位数及びその標準履修年次は、次のとおりです。

〔総合科目Ⅰの修得すべき単位数および標準履修年次〕

学 群 ・ 学 類		標準履修年次	必修 (計2単位)		自 由
			フレッシュマン・セミナー	初年次導入科目	
			単位数	単位数	
人文・文化学群	人 文 学 類	1	1	1	○
	比 較 文 化 学 類	1	1	1	—
	日本語・日本文化学類	1	1	1※	○
社会・国際学群	社 会 学 類	1	1	1	—
	国 際 総 合 学 類	1	1	1	○
人間学群	教 育 学 類	1	1	1※	○
	心 理 学 類	1	1	1	○
	障 害 科 学 類	1	1	1	○
生命環境学群	生 物 学 類	1	1	1	○
	生 物 資 源 学 類	1	1	1	○
	地 球 学 類	1	1	1	○
理工学群	数 学 類	1	1	1※	○
	物 理 学 類	1	1	1※	○
	化 学 類	1	1	1※	○
	応 用 理 工 学 類	1	1	1	○
	工 学 シ ス テ ム 学 類	1	1	1	○
	社 会 工 学 類	1	1	1	○
情報学群	情 報 科 学 類	1	1	1	○
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	1	1	1	—
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	1	1	1※	○
医学群	医 学 類	1	1	1	—
	看 護 学 類	1	1	1	—
	医 療 科 学 類	1	1	1	—
体 育 専 門 学 群		1	1	1	○
芸 術 専 門 学 群		1	1	1	○

(備考) 1. ※は、所属学類で指定する科目を履修することを示す。

日本語・日本文化学類：日本語・日本文化基礎演習，教育学類：教育研究入門，数学類：クラスセミナー，物理学類：クラスセミナー，化学類：クラスセミナー，知識情報・図書館学類：情報リテラシ実習

2. 「卒業生によるオムニバス講座（社会人としていかに生きるか）」は標準履修年次を1～4年次とする。
3. ○は、卒業要件の自由科目としても履修できることを示す。（標準履修年次は特定しない。）
4. —は、科目を履修することは可能である（修得単位は成績証明書に記載される）が、修得した単位を卒業要件の自由科目の単位としてはカウントできないことを示す。

(3) 総合科目Ⅱ

① 総合科目Ⅱは、下記3つの科目群から構成されています。

- 1) 科目群A：物質，数理，生命，環境に関わる総合科目（概ね理系の主題テーマ）
- 2) 科目群B：精神，文化，社会，歴史に関わる総合科目（概ね文系の主題テーマ）
- 3) 科目群C：上記二つの科目群にまたがる総合科目

それぞれの授業科目には、100番台（高校での既習科目によらず履修できる科目）・200番台（高校で特定の科目を履修していることや、関連分野の100番台の総合科目を履修していることを履修要件とする科目）の履修レベルがあり、『開設授業科目一覧』や『総合科目シラバス』に示されていますので、履修する際の参考にしてください。

② 総合科目Ⅱは、科目群A・科目群Bからそれぞれ2単位を含む合計6単位以上を必ず修得しなければなりません。

③ 総合科目Ⅱは、原則として2年次までに履修してください。

④ 各学群・学類における総合科目Ⅱの修得すべき単位数の内訳及びその標準履修年次は、次のとおりです。

【総合科目Ⅱの修得すべき単位数および標準履修年次】

学 群 ・ 学 類		標準履修年次	必修（計6単位）			自 由
			科目群A 単位数	科目群B 単位数	科目群C 単位数	
人文・文化学群	人 文 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	比 較 文 化 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	日本語・日本文化学類	1・2	2～4	2～4	0～2	—
社会・国際学群	社 会 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	—
	国 際 総 合 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
人間学群	教 育 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	心 理 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	障 害 科 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
生命環境学群	生 物 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	生 物 資 源 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	地 球 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
理工学群	数 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	物 理 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	化 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	応 用 理 工 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	工学システム学類	1・2	2	2～4	0～2	○
	社 会 工 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
情報学群	情 報 科 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	情報メディア創成学類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	知識情報・図書館学類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
医学群	医 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	—
	看 護 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	○
	医 療 科 学 類	1・2	2～4	2～4	0～2	—
体 育 専 門 学 群		1・2	2～4	2～4	0～2	○
芸 術 専 門 学 群		1・2	2～4	2～4	0～2	○

(備考) 1. ○は、卒業要件の自由科目（看護学類は選択科目）としても履修できることを示す。

(標準履修年次は特定しない。)

2. —は、科目を履修することは可能である（修得単位は成績証明書に記載される）が、修得した単位を卒業要件の自由科目の単位としてはカウントできないことを示す。

(4) 開設曜日時限

総合科目Ⅰ（フレッシュマン・セミナーおよび学類を指定して開設する科目を除く）は、月曜日1，2，5，6時限，水曜日6時限，木曜日6時限，集中講義で開設されています。総合科目Ⅱは、月曜日1時限または2時限に開設されています。それぞれの学群・学類で行われるガイダンス等に従って選択し、履修してください。ただし、木曜日6時限に開設される総合科目Ⅰ「卒業生によるオムニバス講座（社会人としていかに生きるか）」については、別途掲示により担当講師、授業内容等を周知します。

(5) 履修上の注意事項

① 総合科目における受講者調整について

大型授業科目を解消し、教育の充実を図るため、それぞれの科目について受講者数の上限が定められています。

なお、履修申請者数が受入上限数を超過した場合には、受講者の調整が行われます。受講者の調整に当たっては、1年次生が優先されますが、受入上限数を大幅に超えた科目については、1年次生でも履修できない場合があります。受講調整結果については、掲示により周知します。

② 総合科目の教室変更について

大人数を収容できる教室の数が限られているため、受講者数に応じて教室を変更する場合があります。『開設授業科目一覧』や『総合科目シラバス』に載っている教室は、あくまで仮教室です。教室変更については、掲示により周知しますので、必ず各支援室掲示板を確認してください。

③ 総合科目に関する詳細については『総合科目シラバス』（別冊）を参照してください。

2. 体育

(1) 開設科目区分

体育は、以下のとおり必修科目及び自由科目に区分して開設しています。

区 分	卒業要件	開設形態	内 容
必修科目	必 修	通年実技	各年次生を対象に通年で1単位ずつ履修する科目
		集中実技	2学期入学1年次生、3・4年次生を対象に学内又は学外で一定期間に集中して行う0.5単位の科目
自由科目	自 由	通年実技	年間の時間割により、1年間を通して開設される1単位の科目
		集中実技	全学学生を対象に学内又は学外で一定期間に集中して行う0.5単位の科目
		講 義	開設時限を定めて開設する学期完結又は通年で行う講義による科目
		演 習	開設時限を定めて開設する学期完結又は通年で行う演習による科目

(備考) 自由科目……全学年の学生を対象に、さまざまなタイプの開設科目の中から自由に選択して履修する科目

(2) 修得単位数及び履修年次

「体育」は、必修科目として2～3単位修得しなければなりません。なお、1～2年次の2単位については、当該学年の通年実技を履修します。各学群・学類における修得すべき単位数及び履修年次は、次のとおりです。

学 群 ・ 学 類		必 修		自 由
		単位数	履修年次	
人文・文化学群	人 文 学 類	2	1～2	○
	比 較 文 化 学 類	2	1～2	○
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	3	1～3	○
社会・国際学群	社 会 学 類	2	1～2	○
	国 際 総 合 学 類	3	1～3	○
人間学群	教 育 学 類	2	1～2	○
	心 理 学 類	2	1～2	○
	障 害 科 学 類	2	1～2	○
生命環境学群	生 物 学 類	2	1～2	○
	生 物 資 源 学 類	3	1～3	○
	地 球 学 類	2	1～2	○
理工学群	数 学 類	2	1～2	○
	物 理 学 類	2	1～2	○
	化 学 類	2	1～2	○
	応 用 理 工 学 類	3	1～3	○
	工 学 シ ス テ ム 学 類	3	1～3	○
情報学群	社 会 工 学 類	3	1～3	○
	情 報 科 学 類	3	1～3	○
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	2	1～2	○
医学群	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	2	1～2	○
	医 学 類	2	1～2	—
	看 護 学 類	2	1～2	—
医学群	医 療 科 学 類	2	1～2	—
	体 育 専 門 学 群	—		—
芸 術 専 門 学 群		2	1～2	○

(備考) 1 体育の必修科目が、3単位以上の学類にあつては、3年次以降に通年実技又は集中実技を履修すること。

2 必修科目以外に学生の希望によって、自由科目の体育を履修することができます。(○は卒業要件の自由科目としても履修できることを示す。)

3 体育専門学群にあつては、専門科目又は専門基礎科目の履修により修得した単位をもって「体育」の履修に充てます。

(3) 履修方法及び注意事項

- ① 体育はそれぞれの履修年次に原則として、通年で1単位ずつ修得しなければなりません。ただし、当該年度に修得できなかった場合は、次年度以降において、合わせて履修（2単位以上）することになります。この場合は、当該年次対象に開設する必修科目から履修しなければなりません。
- ② 自由科目の体育を、必修科目の体育に替えることはできません。
- ③ 科目の選択は本人の希望を優先しますが、定員の関係で希望どおりの選択ができるとは限りません。科目の選択にあたっては、『開設授業科目一覧』及び『共通科目体育シラバス』（別冊）を参照してください。
- ④ オリエンテーション及び履修申請
 体育の履修にあたっては、必ず体育センターが行うオリエンテーションに参加しなければなりません。オリエンテーションは、以下のとおり開設形態ごとに行います。ただし、必修科目通年実技の1年次においては、下表のとおり第1学期授業開始第1週の他に、2学期、3学期の第1週目にもオリエンテーションを行います。

開設形態		オリエンテーションの実施	履修申請の期間等
必修科目	通年実技	第1学期授業開始第1・2週の学群・学類・年次毎に指定された時限（固定時間割により体育を行う時限）	オリエンテーション終了後（別途指示します）
	集中実技	授業実施時期の2～4週間前	
自由科目	通年実技	第1学期授業開始第1週の授業の時限	
	集中実技	授業実施時期の2～4週間前	
	講義・演習	開設学期の授業開始第1週の授業の時限	

（注）以下に該当する者は、履修申請期間中に体育センターに申し出て、定員に余裕のある科目の中から選択し、履修申請を行うこと。受付日時については、掲示で連絡します。

・オリエンテーション（科目選択）に欠席した者

- ⑤ 第2学期入学者の履修
 第2学期入学者は、1年次の2・3学期に必修科目の通年実技（0.5単位）を履修し、加えて第2学期入学者対象必修科目の集中実技を履修して、合わせて1単位を修得しなければなりません。2年次以降の履修は、他の学生と同様です。
- ⑥ トリム運動の履修
 トリム運動は、疾病や傷害など、身体的条件によって実技に制限・配慮を必要とする学生が主な対象となります。
- ⑦ その他
 科目によっては、参加費、教材費等を徴収することがあります。

3. 外国語

(1) 外国語の分類

外国語は、必修科目の「第1外国語」とそれぞれの学類で必修科目、選択科目又は自由科目として定める「第2外国語」に区分されています。

区 分	履修上の区分	履修方法	履修年次	修得単位数	備 考
第1外国語	基礎科目 (共通科目)	必修	1～2年次	4.5単位以上	
第2外国語	基礎科目 (共通科目)	必修・選択・ 自由	1～2年次	各学群・学類 で定める	第1外国語以外の外国語

(2) 外国語の開設

外国語は、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語を開設しており、英語以外の外国語は、初修外国語として開設しています。なお、前述の外国語以外にアラビア語を開設していますが、アラビア語については、履修方法が異なりますので、「(5) 英語以外の外国語(初修外国語)の履修について」欄を確認してください。

(3) 履修の要件

「第1外国語」及び「第2外国語」として履修すべき外国語および単位数は、学群・学類ごとに次のように定められています。

学 群 ・ 学 類		第1外国語 (必修)		第2外国語		
		単位数	履修 科目	必修	選択	自由
人文・文化学群	人 文 学 類	4.5	※	4.5	○	○
	比 較 文 化 学 類	6.0	英語	4.5	—	○
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	4.5	英語	4.5	—	○
社会・国際学群	社 会 学 類	4.5	※	4.5	—	○
	国 際 総 合 学 類	4.5	※	4.5	—	○
人間学群	教 育 学 類	5.5	英語	3.0	—	○
	心 理 学 類	5.5	英語	3.0	—	○
	障 害 科 学 類	5.5	英語	3.0	—	○
生命環境学群	生 物 学 類	4.5	英語	—	—	○
	生 物 資 源 学 類	5.5	英語	—	—	○
	地 球 学 類	5.5	英語	—	—	○
理工学群	数 学 類	4.5	※	—	—	○
	物 理 学 類	5.5	英語	—	—	○
	化 学 類	4.5	英語	—	—	○
	応 用 理 工 学 類	5.5	英語	—	—	○
	工 学 シ ス テ ム 学 類	5.5	英語	—	—	○
情報学群	社 会 工 学 類	5.5	英語	—	—	○
	情 報 科 学 類	4.5	英語	—	—	○
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	5.5	英語	—	—	○
医学群	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	6.0	英語	3.0	—	○
	医 学 類	6.0	英語	—	○	—
	看 護 学 類	6.0	英語	—	○	—
	医 療 科 学 類	6.0	英語	—	—	—
	体育専門学群	4.5	英語	—	—	○
	芸術専門学群	4.5	英語	—	○	○

- (備考) 1 ※は第1外国語として特定の言語を指定していない学類を示す。
 2 人文学類において第1外国語又は第2外国語として「英語」を履修する場合の卒業に必要な単位数は、5.5単位となる。
 3 ○は卒業要件の選択科目又は自由科目として履修できることを示す。

(4)「英語」の履修について

学術研究の出発点に立った大学生に求められる学術的教養及び学術的言語技能の涵養を目的としています。

① 必修科目

必修科目には次の4科目があります。

- ・「英語基礎」(1年次履修・通年科目、1.5単位)
- ・「異文化と英語」(1年次履修・通年科目、1.5単位)
- ・「総合英語」(1年次履修・通年科目、1.5単位)
- ・「専門英語基礎演習」(2年次履修・学期完結型科目、原則1.0単位)

各学類・専門学群において第1外国語として英語を履修する場合の履修すべき科目及び単位数は次のとおりです。なお、人文学類、社会学類、国際総合学類においては、第2外国語として英語を履修する場合についても同様です。

学 群 ・ 学 類		1年次			2年次
		英語基礎	異文化と英語	総合英語	専門英語基礎演習
人文・文化学群	人文学類	1.5	1.5	1.5	1.0
	比較文化学類	1.5	1.5	1.5	1.5
	日本語・日本文化学類	1.5	1.5	1.5	*
社会・国際学群	社会学類	1.5	1.5	1.5	*
	国際総合学類	1.5	1.5	1.5	*
人間学群	教育学類	1.5	1.5	1.5	1.0
	心理学類	1.5	1.5	1.5	1.0
	障害科学類	1.5	1.5	1.5	1.0
生命環境学群	生物学類	1.5	1.5	1.5	*
	生物資源学類	1.5	1.5	1.5	1.0
	地球学類	1.5	1.5	1.5	1.0
理工学群	数学類	1.5	1.5	1.5	*
	物理学類	1.5	1.5	1.5	1.0
	化学類	1.5	1.5	1.5	*
	応用理工学類	1.5	1.5	1.5	1.0
	工学システム学類	1.5	1.5	1.5	1.0
情報学群	社会工学類	1.5	1.5	1.5	1.0
	情報科学類	1.5	1.5	1.5	*
	情報メディア創成学類	1.5	1.5	1.5	1.0
医学群	知識情報・図書館学類	1.5	1.5	1.5	1.5
	医学類	1.5	1.5	1.5	1.5
	看護学類	1.5	1.5	1.5	1.5
	医療科学類	1.5	1.5	1.5	1.5
体育専門学群		1.5	1.5	1.5	*
芸術専門学群		1.5	1.5	1.5	**

(備考) *は当該学類・専門学群開設の、「専門英語基礎演習」に相当する科目を履修し、その単位をもって充てることを示す。また、**は外国語センター開設の「専門英語基礎演習(1単位)」又は当該専門学群開設のこれに相当する科目を履修し、その単位をもって充てることを示す。なお、これらの学類・専門学群の開設する代替科目は次の表に示すとおりである。

学 群 ・ 学 類		代 替 科 目 名
人文・文化学群	日本語・日本文化学類	専門英語Ⅰ～Ⅲ
社会・国際学群	社会学類	社会学外書講読Ⅰ
		社会学外書講読Ⅱ
		法律外書講読Ⅰ
		法律外書講読Ⅱ
		法律外書講読Ⅲ
		政治学外書講読Ⅰ
		政治学外書講読Ⅱ
		外国語経済書講読Ⅰ
		外国語経済書講読Ⅱ
		外国語経済書講読Ⅲ
	外国語経済書講読Ⅳ	
	国際総合学類	English Debate
		English Discussion SeminarⅠ
		English Discussion SeminarⅡ
English Discussion SeminarⅢ		
生命環境学群	生物学類	専門語学（英語）AⅠ
		専門語学（英語）AⅡ
理工学群	数学類	数学外書輪講Ⅰ
		数学外書輪講Ⅱ
	化学類	基礎化学外書講読
		専門化学外書講読
情報学群	情報科学類	技術英語Ⅰ
		技術英語Ⅱ
		Mathematics for Computer Science
		専門語学Ⅰ
		専門語学Ⅱ
		専門語学Ⅲ
体育専門学群		体育・スポーツ専門英語基礎演習
芸術専門学群		英語基礎演習A-1
		英語基礎演習A-2
		英語基礎演習B-1
		英語基礎演習B-2
		英語基礎演習C-1
		英語基礎演習C-2

② 選択・自由科目（2年次～4年次履修）

必修科目以外に、個別的なテーマに関する選択・自由科目（「発音クリニック」、「英文法演習」等）があります。

③ 「英語」の履修上の注意事項

ア) 1年次必修科目のクラス編成

1年次必修の3科目については、入学時に実施するプレイスメントテストにより受講クラスが指定されます。指定クラス以外の履修は認めません。クラス編成の詳細については、年度始めに各支援室等に掲示します。

イ) 「専門英語基礎演習」について

「専門英語基礎演習」は、学期完結で1科目0.5単位または1.0単位です。卒業に必要な単位数となるように履修しなければなりません。(原則として、同一学期において2科目以上の履修は認めません。)例えば、1.0単位履修しなければならない場合は、0.5単位の科目を学期を変えて2科目履修するか、1.0単位の科目を1科目履修することになります。

「専門英語基礎演習」として主に次のような科目が開設されます。

英語母語話者教員担当科目 (以下の科目は対象を文系・理系に分けて 開設しています。)	日本人教員担当科目	その他
英語プレゼンテーション演習Ⅰ	科学英語演習	テストテイキング演習Ⅰ
英語プレゼンテーション演習Ⅱ	メディア英語演習	テストテイキング演習Ⅱ
アカデミック・ライティングⅠ	学術英語講読	テストテイキング演習Ⅲ
アカデミック・ライティングⅡ	翻訳演習	

なお、同名の科目を重複して履修することはできませんが、同名の科目でもⅠとⅡで区別されていれば、そのどちらも履修可能です。また、「専門英語基礎演習」は、1年次履修の必修科目とは異なり、原則として固定時間割に縛られず自分の興味や時間割にあわせて学期ごとに自由に受講するクラスを選べます。ただし、多くのクラスで受講者数に上限が設けられており、抽選などで受講者数の調整が図られます。そのため、学期によっては履修できない場合があります。「専門英語基礎演習」は履修する学期の初めに通常とは異なる日程で履修申請をする必要があります。詳細については掲示で通知します。

ウ) 2学期入学者について

1年次履修の必修3科目はそれぞれ通年1.5単位の科目です。それぞれの1学期分の履修については、2学期入学者対象の特別科目である「英語特設Ⅰ」(0.5単位)、「英語特設Ⅱ」(0.5単位)、「英語特設Ⅲ」(0.5単位)の履修をもって充てます。これらの科目は春季集中科目として実施され、履修しないと2年次以降に1年次の必修3科目を最初から通年で履修しなおすこととなります。なお、「英語特設Ⅰ」、「英語特設Ⅱ」、「英語特設Ⅲ」を入学年度の翌年度に履修することはできません。

エ) 「英語」の再履修について

「英語基礎」、「異文化と英語」及び「総合英語」の再履修を行う場合は、1年次に指定されたクラスと同じクラスで再受講するものとします。それが時間割上困難な場合は、年度初めに実施される外国語センターの「英語再履修相談会」で個別に相談し受講クラスを決め、授業担当教員の許可を得るものとします。詳細については掲示で通知します。「専門英語基礎演習」の再履修を行う場合は、「専門英語基礎演習」の通常の履修と同じように受講クラスを決定してください。

(5) 英語以外の外国語（初修外国語）の履修について

未知の外国語に挑むことで知的訓練を積み、文化的・社会的な多様性に対する認識を深め、複眼的な視点からの思考力を身に付けるとともに、当該の外国語の実用的な運用能力を養うことを目的としています。

① 必修科目

ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語の6言語については、1年次履修の基礎的な内容の科目と2年次履修の応用的な内容の科目が開設されます。アラビア語については、2年次履修の基礎的な内容の科目が開設されます。

ア) 基礎的な科目

(1年次履修・通年科目、各1.5単位)

- ・「ドイツ語基礎A」
- ・「ドイツ語基礎B」
- ・「フランス語基礎A」
- ・「フランス語基礎B」
- ・「スペイン語基礎A」
- ・「スペイン語基礎B」
- ・「ロシア語基礎A」
- ・「ロシア語基礎B」
- ・「中国語基礎A」
- ・「中国語基礎B」
- ・「朝鮮語基礎A」
- ・「朝鮮語基礎B」

(2年次履修・通年科目、1.5単位)

- ・「アラビア語基礎」

イ) 応用的な科目（2年次履修・学期完結型科目、各0.5単位）

- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅠA（ドイツ語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅠB（ドイツ語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅠC（ドイツ語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅡA（フランス語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅡB（フランス語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅡC（フランス語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅢA（スペイン語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅢB（スペイン語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅢC（スペイン語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅣA（ロシア語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅣB（ロシア語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅣC（ロシア語）」
- ・「東アジア文化圏の言語と文化ⅠA（中国語）」
- ・「東アジア文化圏の言語と文化ⅠB（中国語）」
- ・「東アジア文化圏の言語と文化ⅠC（中国語）」
- ・「東アジア文化圏の言語と文化ⅡA（朝鮮語）」
- ・「東アジア文化圏の言語と文化ⅡB（朝鮮語）」
- ・「東アジア文化圏の言語と文化ⅡC（朝鮮語）」

各学類・専門学群において、「第1外国語」または「第2外国語」として英語以外の外国語（初修外国語）を選択した場合の履修すべき科目及び単位数は次のとおりです。

学 群 ・ 学 類		1 年 次	2 年 次	
		〇〇語基礎		〇〇文化圏の言語と文化（〇〇語）
		ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語に関する科目	アラビア語に関する科目	
人文・文化学群	人 文 学 類	3.0	—	1.5
	比 較 文 化 学 類	3.0	—	1.5
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	3.0	1.5	
社会・国際学群	社 会 学 類	3.0	1.5	
	国 際 総 合 学 類	3.0	1.5	
人間学群	教 育 学 類	3.0	—	—
	心 理 学 類	3.0	—	—
	障 害 科 学 類	3.0	—	—
生命環境学群	生 物 学 類	—	—	—
	生 物 資 源 学 類	—	—	—
	地 球 学 類	—	—	—
理工学群	数 学 類	3.0	1.5	
	物 理 学 類	—	—	—
	化 学 類	—	—	—
	応 用 理 工 学 類	—	—	—
	工 学 シ ス テ ム 学 類	—	—	—
情報学群	社 会 工 学 類	—	—	—
	情 報 科 学 類	—	—	—
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	—	—	—
医学群	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	3.0	—	—
	医 学 類	—	—	—
	看 護 学 類	—	—	—
	医 療 科 学 類	—	—	—
体育専門学群		—	—	—
芸術専門学群		—	—	—

- (備考) 1 日本語・日本文化学類、社会学類、国際総合学類、数学類にあつては、「〇〇文化圏の言語と文化（〇〇語）」か「アラビア語基礎」の中から1.5単位を履修する。
- 2 人文学類、社会学類、国際総合学類における上表の数字は、第1外国語又は第2外国語として履修すべき科目及び単位数を示す。
- 3 比較文化学類、日本語・日本文化学類、教育学類、心理学類、障害科学類、知識情報・図書館学類における上表の数字は、第2外国語として履修すべき科目及び単位数を示す。
- 4 数学類における上表の数字は、第1外国語として履修する際の科目及び単位数を示す。

② 選択・自由科目（2～4年次履修）

2年次生以上を対象に開設される、当該外国語の比較的高度な運用能力を養うことを目的とする科目です。必修科目としては履修できません。開設科目例は次のとおりです。

- ・「応用ドイツ語講読」
- ・「応用ドイツ語作文」

- ・「応用ドイツ語会話」
- ・「応用フランス語講読」
- ・「応用フランス語作文」
- ・「応用フランス語会話」
- ・「応用スペイン語講読」
- ・「応用スペイン語会話」
- ・「応用ロシア語講読」
- ・「応用ロシア語作文」
- ・「応用ロシア語会話」
- ・「応用中国語講読」
- ・「応用中国語会話」
- ・「応用朝鮮語講読」
- ・「応用朝鮮語会話」

③ 英語以外の外国語（初修外国語）の履修上の注意事項

ア) 必修科目のうちの基礎的な科目の履修について

固定時間割で実施されますので、自分が所属する学類・専門学群が対象となっているクラスを受講してください。また、同一言語について2種類の科目を履修するものとします。例えば、「ドイツ語基礎A」と「ドイツ語基礎B」の2科目を履修することはできますが、「ドイツ語基礎A」と「フランス語基礎B」の2科目の履修をもって、3.0単位必修の卒業要件を満たすことはできません。ただし、アラビア語については「アラビア語基礎」の1科目だけの履修でよいものとします。なお、特定のクラスで受講者が著しく多い場合は抽選などで人数制限を行い、履修する外国語の種類を変更してもらった場合もあります。

イ) 必修科目のうちの応用的な科目の履修について

基礎的な科目で選択したのと同じ言語に関する科目を履修しなければなりません。

例えば、基礎的な科目では「ドイツ語基礎」を、応用的な科目では「ヨーロッパ文化圏の言語と文化Ⅱ（フランス語）」を選択するといったことは、原則として認められていません。また、学期完結型科目であり、固定時間割に縛られず学期ごとに自由に受講するクラスを選べますが、受講者数の調整を図るため、履修する学期の初めに通常とは異なる履修申請をしてもらうことがあります。詳細は掲示で通知します。

ウ) 選択・自由科目の履修について

選択・自由科目を履修するには、当該言語に関する基礎的な科目のすべてが履修済みでなければなりません。

例えば、原則として、「ドイツ語基礎A」しか履修していない者が、「応用ドイツ語会話」を履修することはできません。

エ) 2学期入学者について

必修科目の基礎的な科目（「〇〇語基礎」）はすべて通年1.5単位の科目です。

それぞれの1学期分の履修については、2学期入学者対象の特別科目の履修をもって充てます。開設されない語学もありますので、詳細は『開設授業科目一覧』などで確認してください。この科目を入学年度の翌年度に履修することはできません。当該年度に履修しない場合は、2年次以降に最初から通年ですべて履修しなおすことになります。

オ) 英語以外の外国語（初修外国語）の再履修について

受講を希望するクラスの担当教員に相談し、許可を得た上で、再履修をしてください。

4. 情報処理

情報処理は、以下の科目から構成されます。

なお、情報処理の授業は主に実習室にて行いますが、入室の際に学生証が必要ですので、必ず持参してください。

(1) 「情報処理（講義・実習）」

① 「情報処理（講義・実習）」の構成と修得単位

「情報処理」2単位は、必修科目として講義1単位と実習1単位を必ず修得しなければなりません。また、「情報処理」は1年次に履修することを原則とします。

なお、G30英語プログラムでの入学者を対象に英語で実施する科目を開設します。G30英語プログラム以外の学生は、原則この科目を履修できません。

□「情報処理」の構成及び修得単位数等

区 分	授業科目名	単位数	修得単位数	科目番号	標準履修年次			
					1	2	3	4
情報処理	情報処理（講義）	1	2単位	6101 101～	○			
	情報処理（実習）	1		6201 103～	○			

（備考）理工学群社会工学類，情報学群情報科学類，情報メディア創成学類及び知識情報・図書館学類にあっては，専門科目又は専門基礎科目の履修により修得した単位をもって「情報処理」の履修に充てます。

② 履修すべき科目の指定

それぞれ履修すべき学群・学類，クラス（班）が指定されます。指定科目以外の履修は原則として認められません。履修クラス（班）は，年度当初に掲示で連絡します。

(2) 「情報処理（上級）」

① 「情報処理（上級）」の構成と修得単位数

情報処理（上級）は、「情報処理」（講義・実習）を履修した者に対して，全学群・学類を対象に2科目（それぞれ1単位）を開設しています。

なお，当該科目を必修の「情報処理」に振替えることはできません。

□「情報処理（上級）」の構成

区 分	授 業 科 目 名	種 別	開設学期・時間・単位
情報処理 （上級）	プログラミング言語(Java)	実習（講義を含む）	3学期 週2時限 1単位
	インタラクションデザイン	実習（講義を含む）	3学期 週2時限 1単位

② 履修の制限

実習室のコンピュータの台数の関係で，受講制限をします。履修申請の時期及び受講制限の方法等については，掲示にて周知しますので，注意してください。

(3) 「情報処理」の卒業に必要な修得単位数

「情報処理（講義・実習）」及び「情報処理（上級）」の修得単位数及び区分は下表のとおりです。○印は、卒業に必要な単位として、選択科目または自由科目に算入できることを示します。（標準履修年次は1～4年次）

なお、具体的に何単位まで卒業要件に算入できるかは、所属する学群の学群履修細則の第3条に係る別表第1を参照してください。

科 目		講義・実習		上 級			
		区 分	基礎科目	標準履修年次	基礎科目		
			共通科目		共通科目		関連科目
			必修科目		自由科目	選択科目	自由科目
学群・学類							
人文・文化学群	人 文 学 類	2	1年次	—	—	○	
	比 較 文 化 学 類	2	1年次	—	—	—	
	日本語・日本文化学類	2	1年次	—	—	○	
社会・国際学群	社 会 学 類	2	1年次	○	—	—	
	国 際 総 合 学 類	2	1年次	○	—	—	
人間学群	教 育 学 類	2	1年次	○	—	—	
	心 理 学 類	2	1年次	○	—	—	
	障 害 科 学 類	2	1年次	○	—	—	
生命環境学群	生 物 学 類	2	1年次	○	—	○	
	生 物 資 源 学 類	2	1年次	○	—	—	
	地 球 学 類	2	1年次	○	—	—	
理工学群	数 学 類	2	1年次	○	—	—	
	物 理 学 類	2	1年次	○	—	—	
	化 学 類	2	1年次	○	—	—	
	応 用 理 工 学 類	2	1年次	○	—	—	
	工 学 シ ス テ ム 学 類	2	1年次	○	—	—	
	社 会 工 学 類	※	—	○	—	—	
情報学群	情 報 科 学 類	※	—	—	—	—	
	情報メディア創成学類	※	—	—	—	○	
	知識情報・図書館学類	※	—	—	—	—	
医学群	医 学 類	2	1年次	—	○	—	
	看 護 学 類	2	1年次	—	○	—	
	医 療 科 学 類	2	1年次	—	—	—	
体 育 専 門 学 群		2	1年次	○	—	—	
芸 術 専 門 学 群		2	1年次	○	—	—	

※印は、専門基礎科目（社会工学類、情報メディア創成学類及び知識情報・図書館学類）又は専門科目（情報科学類）の履修により修得した単位をもって充てることを示す。

5. 国語

(1) 履修の目的

国際化社会における日本人の母語、「日本語」についての新たな自覚と認識を持たせるとともに日本語による表現能力を高めることを目的とします。また、レポート等を作成するための基本的な文章表現の理論と実際についても併せて指導します。

(2) 講義の内容

国語の内容を「国語Ⅰ」、「国語Ⅱ」及び「国語Ⅲ」に分け、「国語Ⅰ」では基礎的内容を、「国語Ⅱ」及び「国語Ⅲ」では「国語Ⅰ」の学習にもとづく応用・発展を内容として取り上げます。授業内容等の詳細は、『国語シラバス』を参照してください。

(3) 履修の方法

- ① 「国語Ⅰ」、「国語Ⅱ」及び「国語Ⅲ」の各科目は、必修科目とする学群・学類に対応して開設しています(表1)。受講は、対象学群・学類に対応する授業科目の受講を原則とします。対象学群・学類以外の授業科目を受講する場合は、あらかじめ担当教員の許可を得なければなりません。
また、特に学群・学類を指定しない「全学群対象」の授業科目も開設しています(表2)。
- ② 国語1単位の修得を必要とする学生は、「国語Ⅰ」を履修し、国語2単位の修得を必要とする学生は、「国語Ⅰ」を修得したうえで「国語Ⅱ」(既修の「国語Ⅰ」の担当教員以外の教員による「国語Ⅱ」の選択も可能)を履修しなければなりません。
- ③ 国語3単位の修得を必要とする学生は、「国語Ⅰ」と「国語Ⅱ」の単位を修得したうえで、原則として、既修の「国語Ⅱ」の担当教員以外の教員が担当する「国語Ⅲ」を選択し履修しなければなりません。

(表1) 国語の履修年次と修得単位数

学 類	履修年次	修得単位数
人 文 学 類	1年次	必修3単位
比 較 文 化 学 類	1年次	必修2単位
生 物 資 源 学 類	1年次	必修1単位
医 学 類	1年次	必修1単位
看 護 学 類	1年次	必修1単位
医 療 科 学 類	1年次	必修1単位
体 育 専 門 学 群	1年次	必修2単位
その他の学群・学類	1年次	自 由

注 修得単位数については、各学群・学類の履修細則を参照すること。

(表2) 国語の固定時間割

曜日 学期 時限	月			火			水			木			金		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
1				国Ⅰ 資源1 国Ⅰ 資源2 国Ⅰ 資源3	国Ⅰ 資源4 国Ⅰ 資源5	国Ⅱ (全)	国Ⅰ (全)	国Ⅱ (全)	国Ⅰ (全)					国Ⅰ (全)	国Ⅱ (全)
2					国Ⅰ (全)	国Ⅱ (全)	国Ⅰ (全)	国Ⅰ (全) 国Ⅱ (全)	国Ⅱ (全)				国Ⅰ (全)	国Ⅱ (全)	
3	国Ⅰ (全) 国Ⅰ (全)	国Ⅱ (全)	国Ⅱ (全)	国Ⅰ 医学1 国Ⅰ 医学2 国Ⅰ 医学3	国Ⅱ (全)						国Ⅰ 体育1 国Ⅰ 体育2 国Ⅰ 体育3 国Ⅰ 体育4 国Ⅰ 体育5	国Ⅱ 体育1 国Ⅱ 体育2 国Ⅱ 体育3 国Ⅱ 体育4 国Ⅱ 体育5	国Ⅰ 人文1 国Ⅰ 人文2 国Ⅰ 人文3 国Ⅰ 人文4 国Ⅰ 医療	国Ⅱ 人文1 国Ⅱ 人文2 国Ⅱ 人文3 国Ⅱ 人文4	国Ⅲ 人文1 国Ⅲ 人文2 国Ⅲ 人文3 国Ⅲ 人文4
4				国Ⅰ 看護1 国Ⅰ 看護2	国Ⅱ (全)										
5				国Ⅰ (全)										国Ⅰ 比文1 国Ⅰ 比文2	国Ⅱ 比文1 国Ⅱ 比文2

注1 「国Ⅰ」「国Ⅱ」「国Ⅲ」は、「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」「国語Ⅲ」を表す。

2 「資源1」「資源2」などの数字は、「資源1班」「資源2班」など、学群・学類を指定する授業での班番号を表す。

3 (全)は、「全学対象」の授業を表す。

4 履修クラス(班)は、年度当初に掲示で連絡する。

6. 芸術

(1) 開設趣旨

美を感じ、美を表現し、美を共有することは、すべての人が本来備えている素質であるが、受けた訓練や経験の違いによって、それぞれの水準や質が著しく異なることも知られている。芸術分野は国際的には大学におけるリベラルアーツ教育の重要な要素とみなされてきたが、わが国の高等教育においては必ずしもその重要性が認識されてこなかった。芸術によって涵養されるバランス感覚や自己表現の能力は、これからの調和的発展を目指す持続可能な社会にとっては必要不可欠なものになりつつある。筑波大学は創設以来わが国を代表する芸術分野の部局を持ち、優れた専門家を輩出してきた。その伝統をさらに発展させて、筑波大学の学生が芸術学、美術、構成、デザインの全般にわたってすぐれた文化的営みを理解し鑑賞する力と、これらの営みに積極的に参加しようとする態度をはぐくむために、芸術科目として開講する。

(2) 授業の内容

芸術専門学群の教育組織に対応する、下記の4専攻、15のコース、領域、特別カリキュラムから、24の科目が開講されます。講義、演習、実習などからなります。

芸術学専攻

芸術学・美術史コース

芸術支援コース

美術専攻

洋画コース

日本画コース

彫塑コース

書コース

特別カリキュラム・版画

構成専攻

総合造形領域

クラフト領域

構成領域

ビジュアルデザイン領域

デザイン専攻

情報デザイン領域

プロダクトデザイン領域

環境デザイン領域

建築デザイン領域

(3) 履修上の注意事項

- ① 演習、実習科目などについては、教育の充実を図るために受講者数の上限が定められています。履修申請者数が受入上限数を超過した場合には受講者の調整が行われますので注意してください。
- ② 実習科目などについては、履修に際して保険の加入を義務付けることがあります。

MEMO